

厚生科学審議会 感染症分科会 予防接種部会
2010年5月19日

感染症サーベイランス
予防接種率調査
予防接種副反応調査
～臨床サイドから～

福岡市立西部療育センター
センター長(小児科)
宮崎千明

感染症サーベイランス

- 小児科外来患者の多くは、発熱、発疹、咳、鼻水、下痢、嘔吐などを訴える感染症患児である。
- 感染症の診断には臨床症状、検査のみならず、流行情報、予防接種歴が重要である。
- 小児の臨床検査は容易ではないので、具体的な病原体の流行情報は非常に有用である。
- 局地的流行と全国的な流行の両方が情報として必要である。
- 感染症発生動向調査だけでなく、病原微生物検出情報や血清疫学情報も極めて重症である。

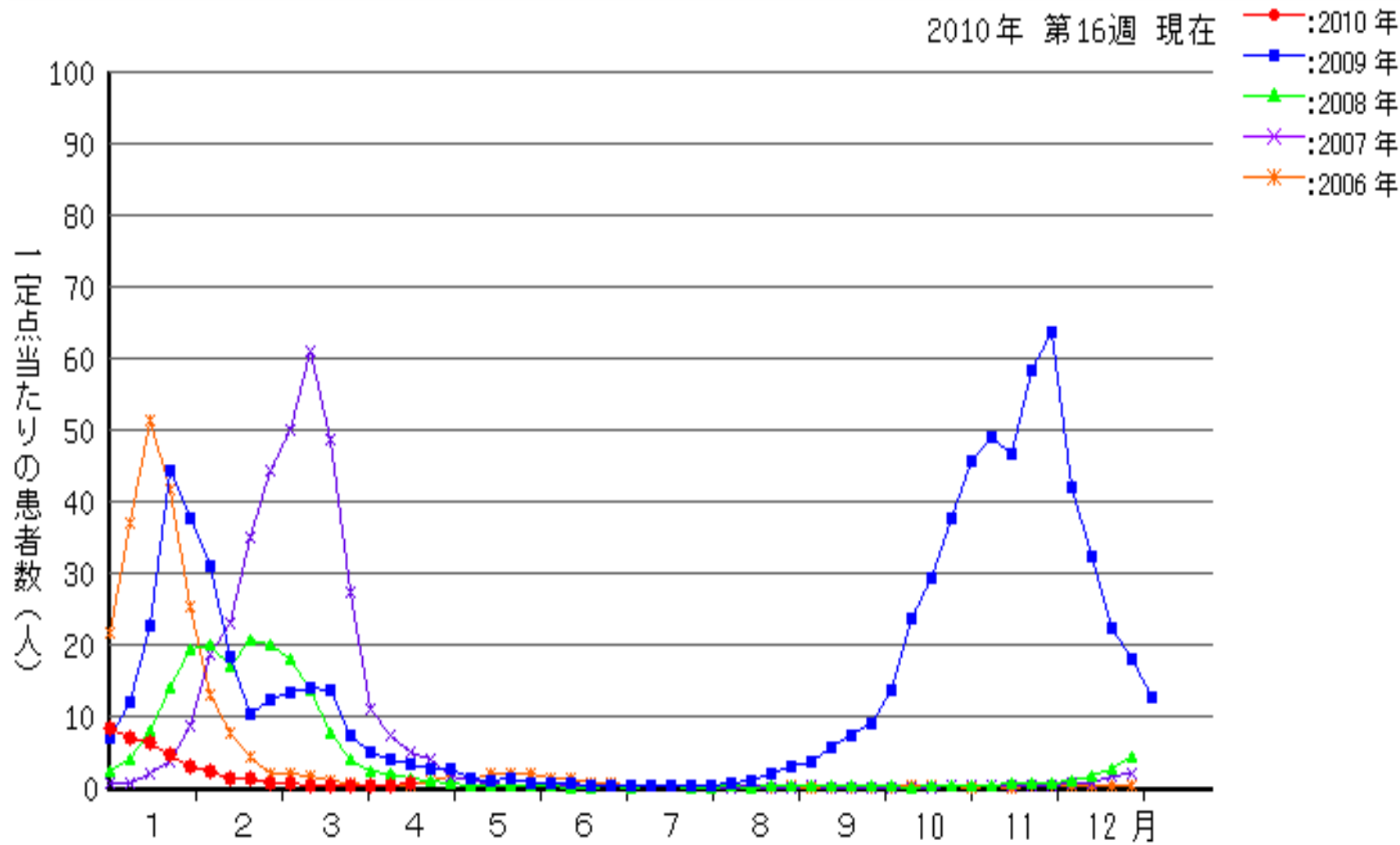
福岡県の感染症発生動向調査

福岡県医師会ホームページから(1)

病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	74	190%	福岡66、筑後5	0.37	0.14
RSウイルス感染症	17	77%	福岡14、北九州2	0.14	0.22
咽頭結膜熱	37	137%	福岡22、筑後10	0.31	0.18
A群溶連菌咽頭炎	209	130%	福岡108、北九州49	1.74	1.36
感染性胃腸炎	1381	102%	福岡631、筑後327	11.51	8.99
水痘	293	99%	福岡141、北九州84	2.44	1.65
手足口病	68	131%	福岡33、北九州20	0.57	0.55
伝染性紅斑	51	170%	福岡41、筑後6	0.43	0.26
突発性発しん	111	96%	福岡53、筑後24	0.93	0.61

福岡県の感染症発生動向調査(2)

■インフルエンザ（福岡県全域）

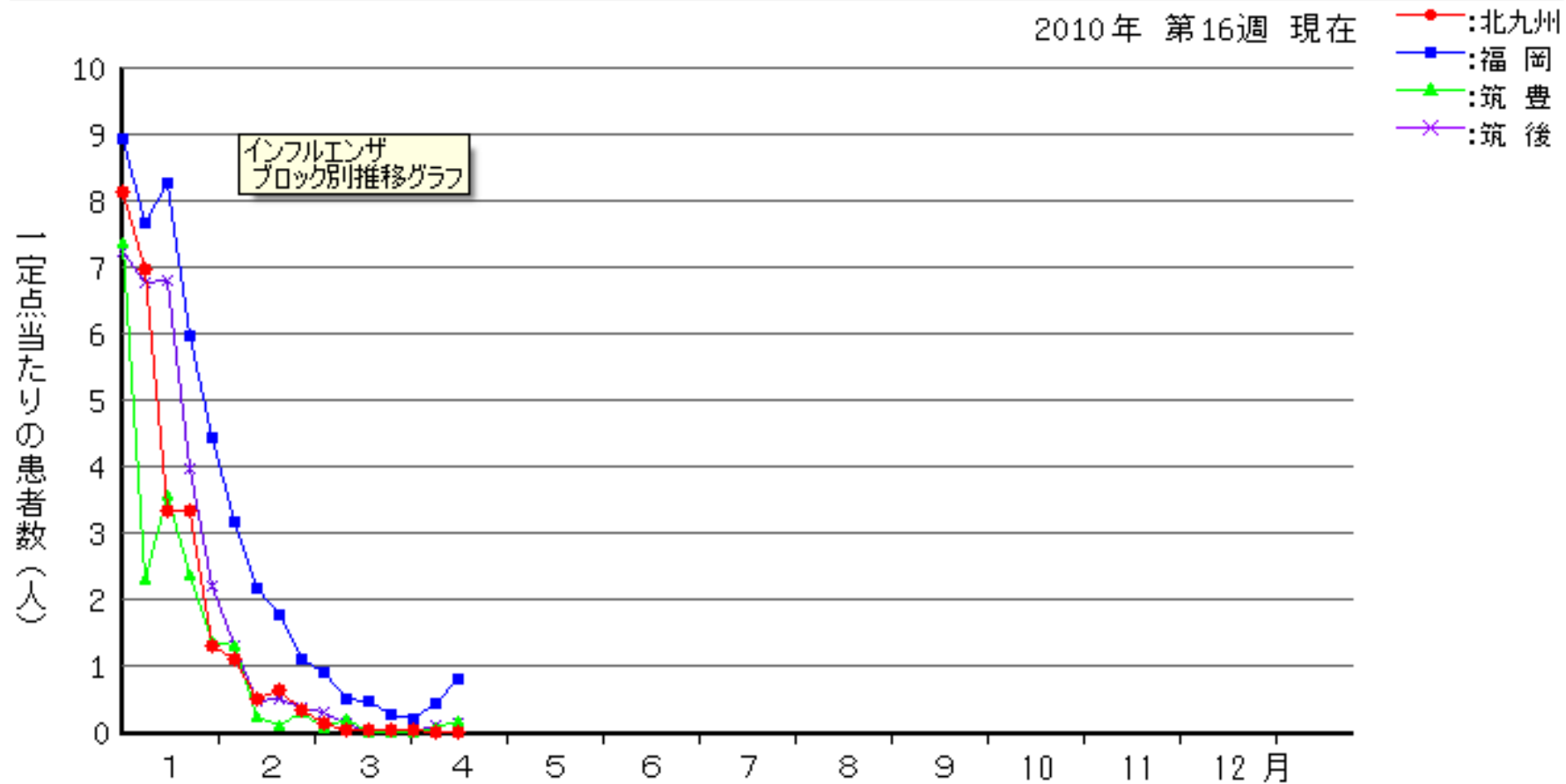


福岡県の感染症発生動向調査(3)

県内地域別発生数

■インフルエンザ (地域ブロック別)

2010年 第16週 現在



感染症をつかむ：宿主と病原体と環境

- 宿主の感受性（予防接種歴、血清疫学）
- 病原体の蔓延（病原微生物検出）
- 媒介動物の状況
- 感染症の発生（感染症発生動向）
- 予防接種率と疾患の減少

全国データ：日本脳炎を例に

図1. 日本脳炎患者報告数：感染症発生動向調査より(2007-2008年は暫定数)

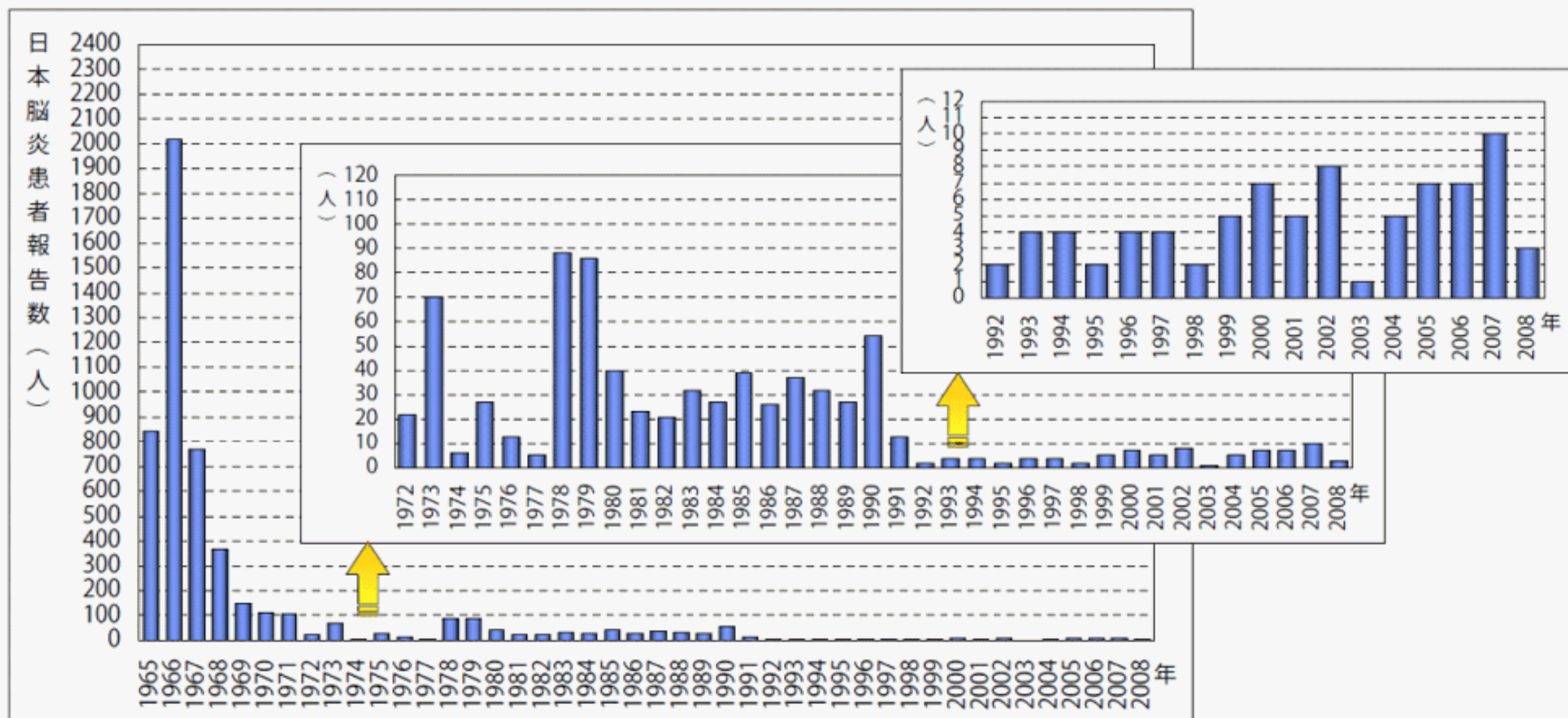


図7 地域別日本脳炎患者報告数(発病年別), 2000～2009年4月 (2009年5月末現在)
(感染症発生動向調査より)

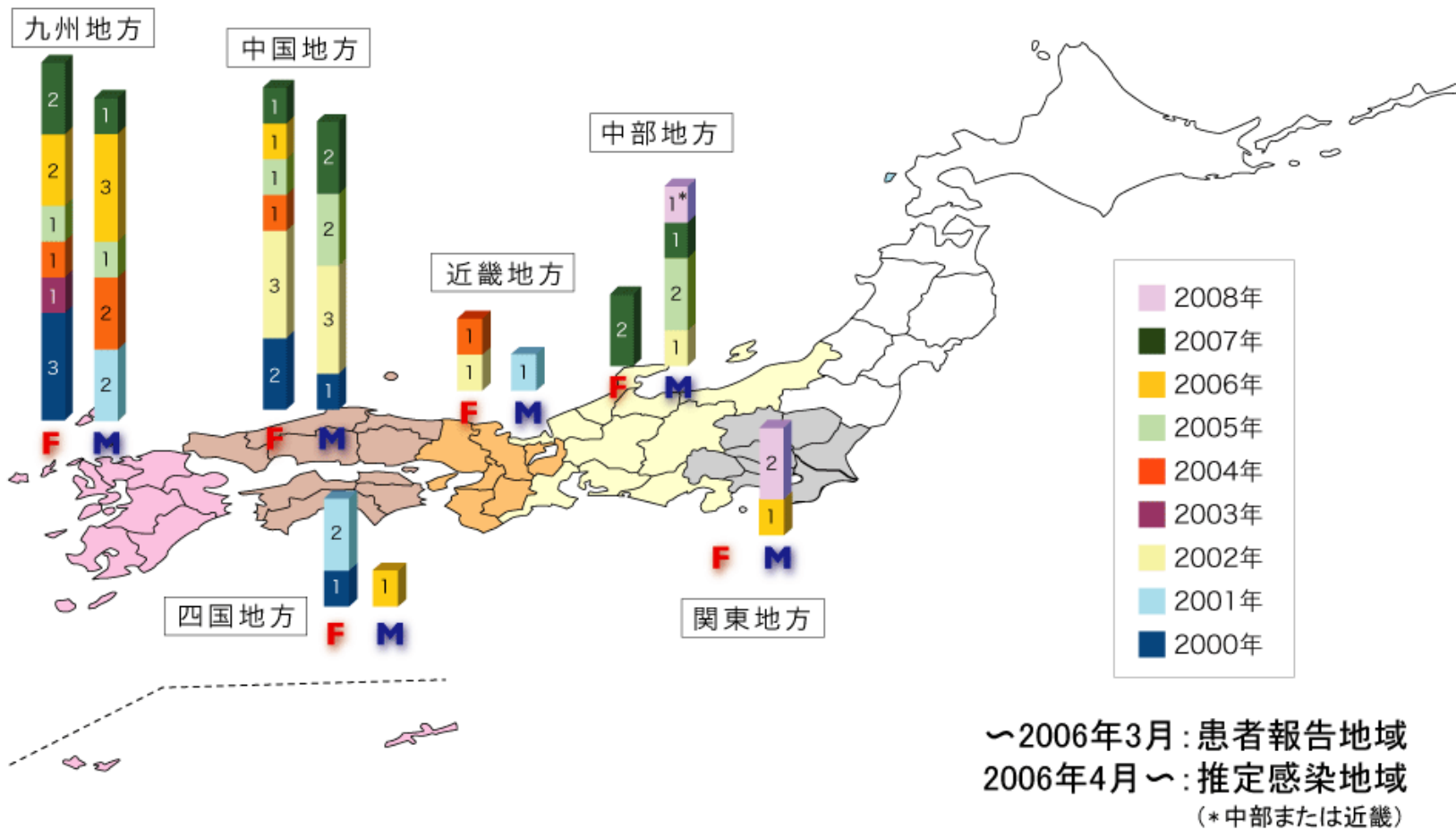
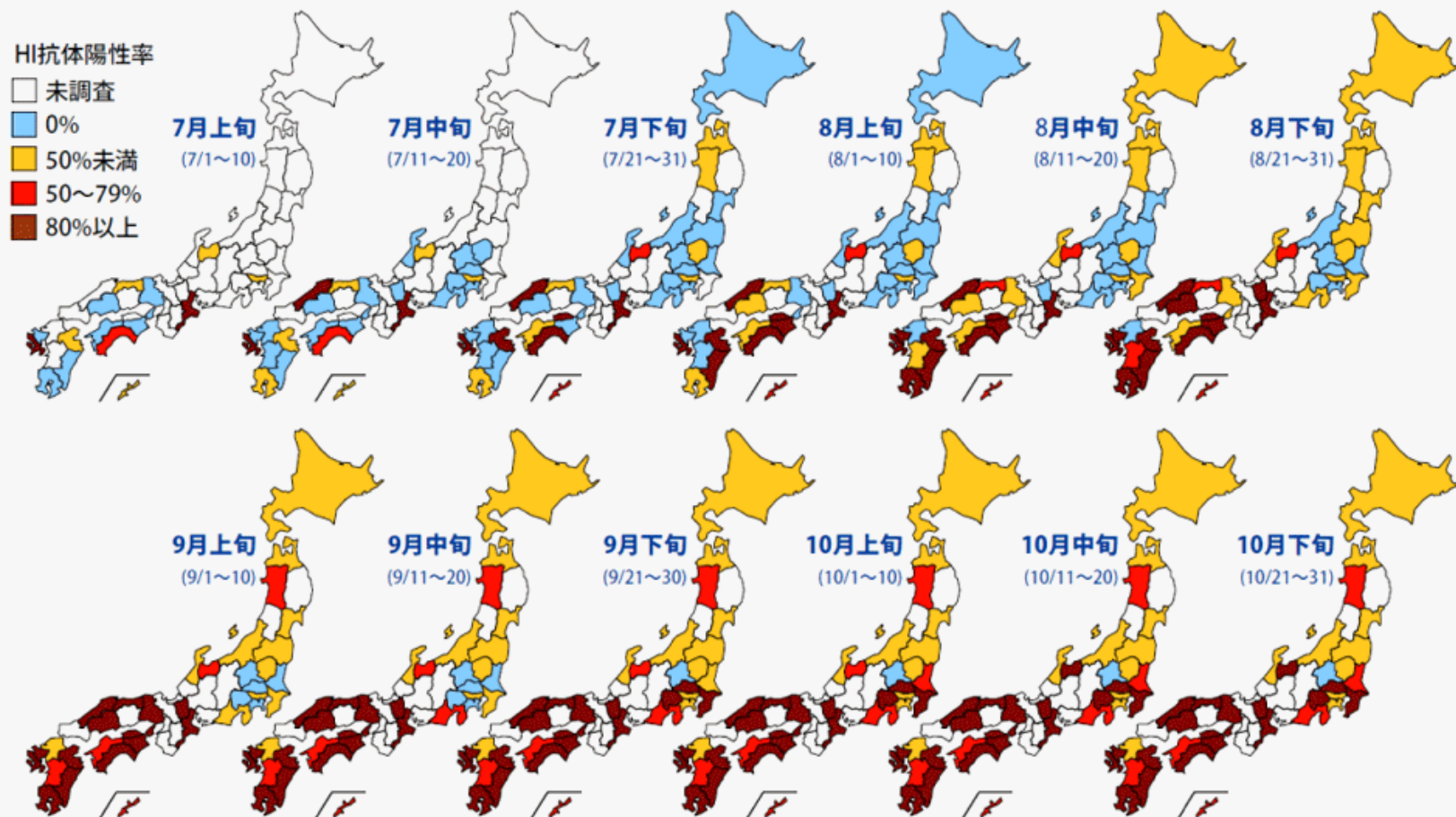


図3. ブタの日本脳炎ウイルス感染状況, 2008年7~10月: 感染症流行予測調査より(暫定結果)



※地図の色分けは調査開始から当該月(旬)までに採血された期間における最高抗体陽性率を示す

図5. 年齢／年齢群別の日本脳炎抗体保有状況, 2008年: 感染症流行予測調査より(暫定結果)

[抗体価測定: 中和法 / n = 3,216]

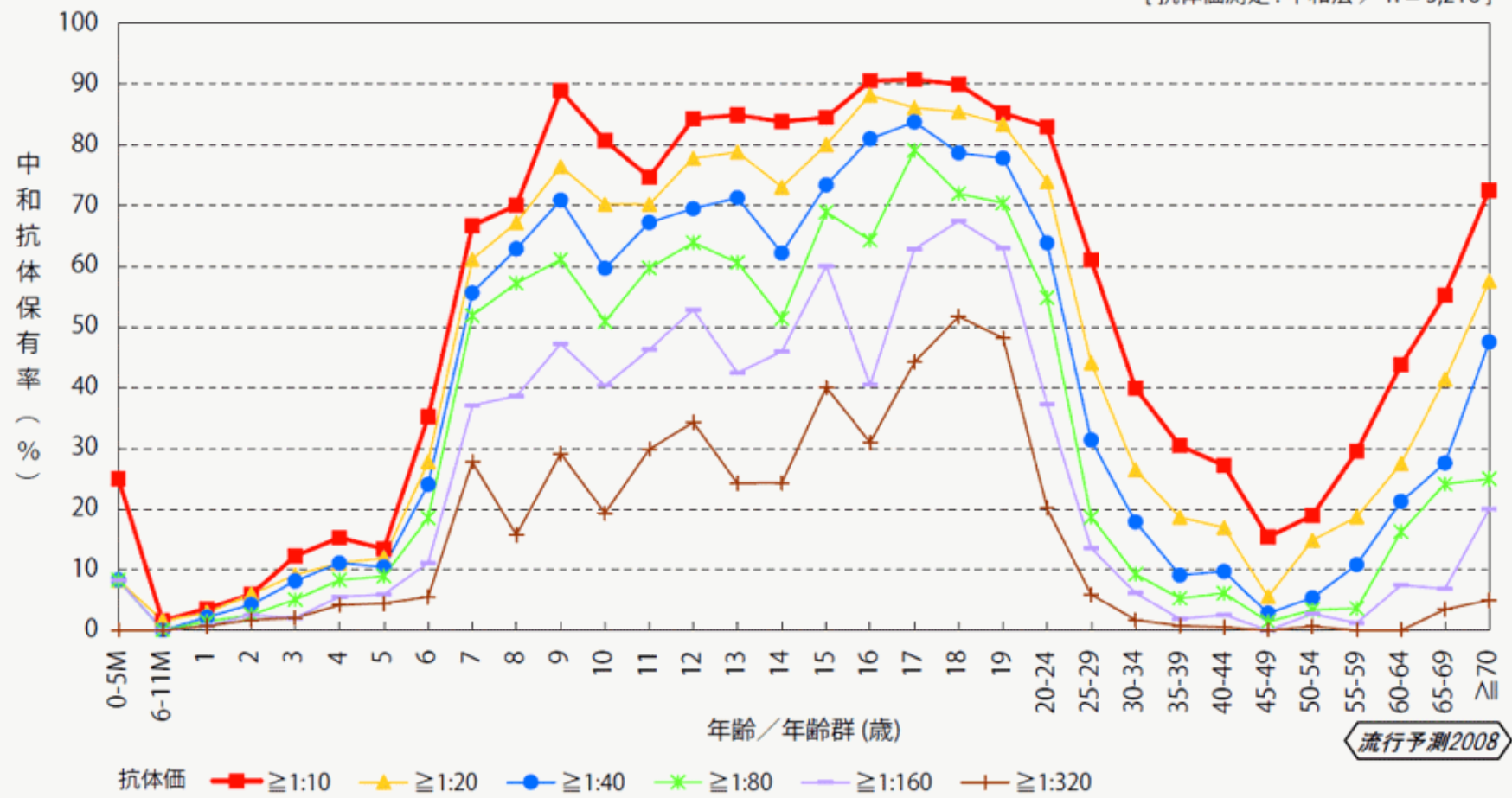


図3. 破傷風患者の性別年齢分布, 2004~2008年

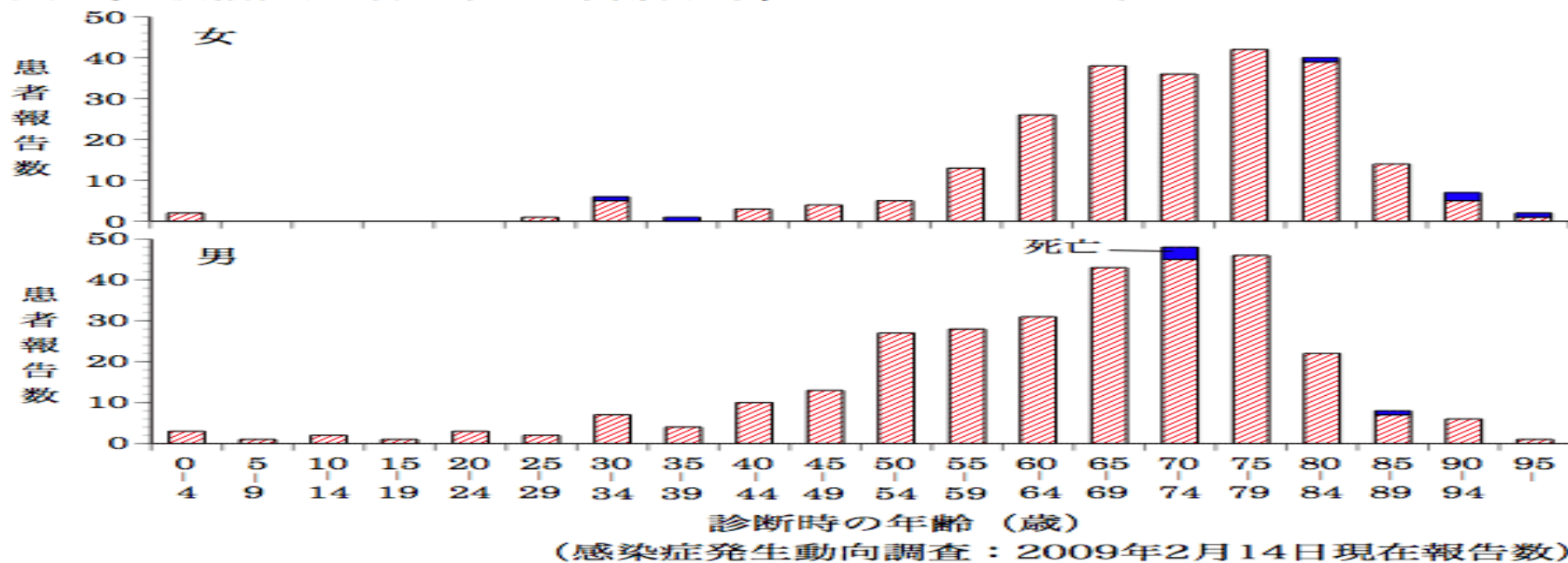
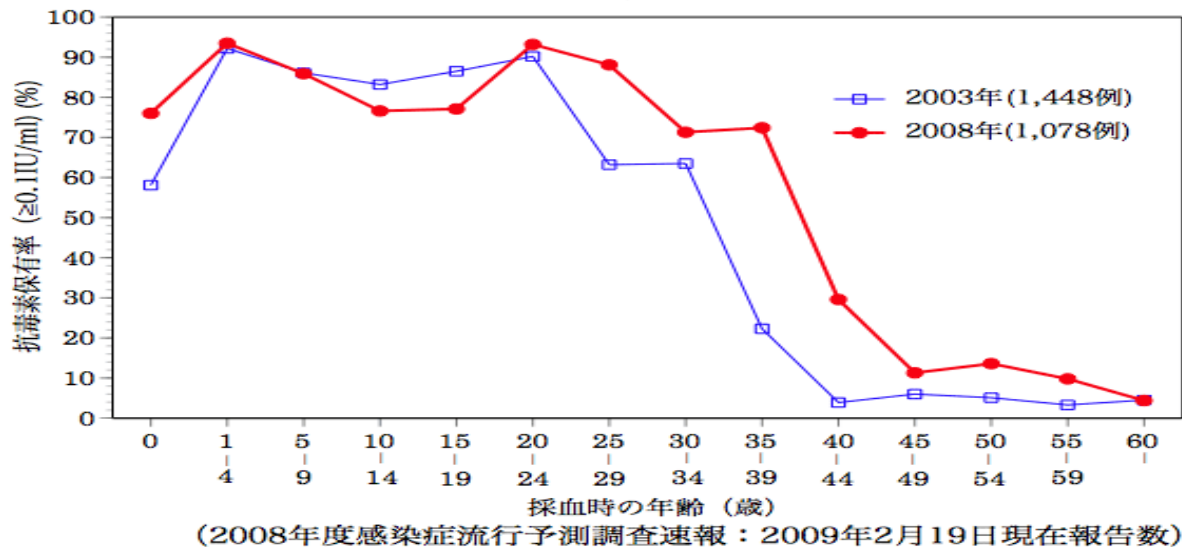


図5. 年齢別破傷風抗毒素保有状況, 2003年と2008年の比較



IASR

Infectious Agents Surveillance Report

破傷風:
ワクチン歴の
ない世代に患
者が発生して
いる

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

予防接種の副反応調査

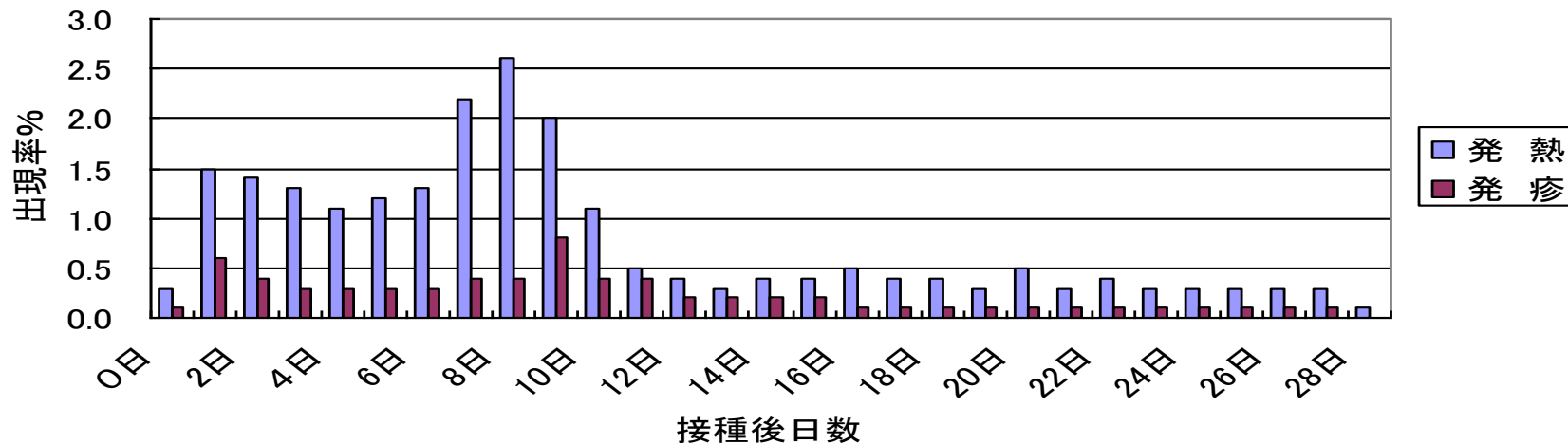
報告システム	調査対象	特徴 報告先
予防接種後健康状況調査	定期接種のみ 通常起こる副反応	指定医療機関での定点観測 前向き調査 健康局
予防接種後副反応報告	定期接種のみ 重篤な副反応	全数報告 因果関係にこだわらない 健康局
医薬品副作用報告	任意接種も 重篤な副作用	医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 医薬食品局
製造所の市販後調査		

予防接種の副反応に関する厚労省情報

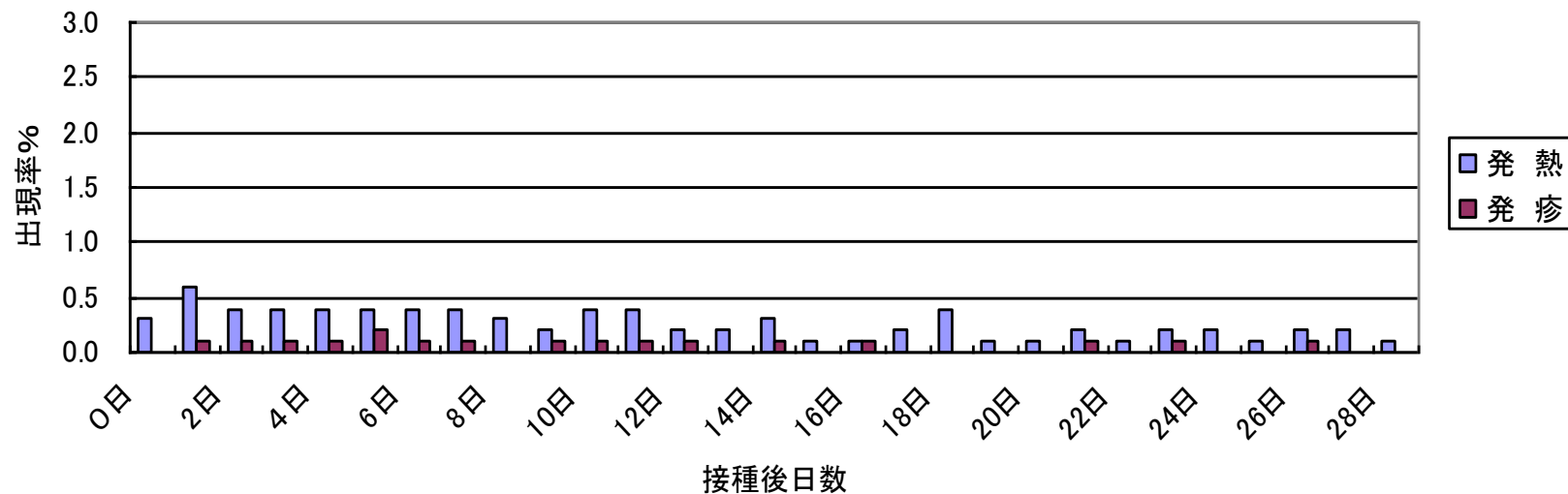
- 予防接種後副反応報告（H19年度）
- <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/s0401-5.html>
- 予防接種後健康状況調査（H19年度）
- <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/txt/s0401-2.txt>
- 疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会審議結果（H21年9月30日）
- <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0930-18.html>

MRワクチン:H18年度

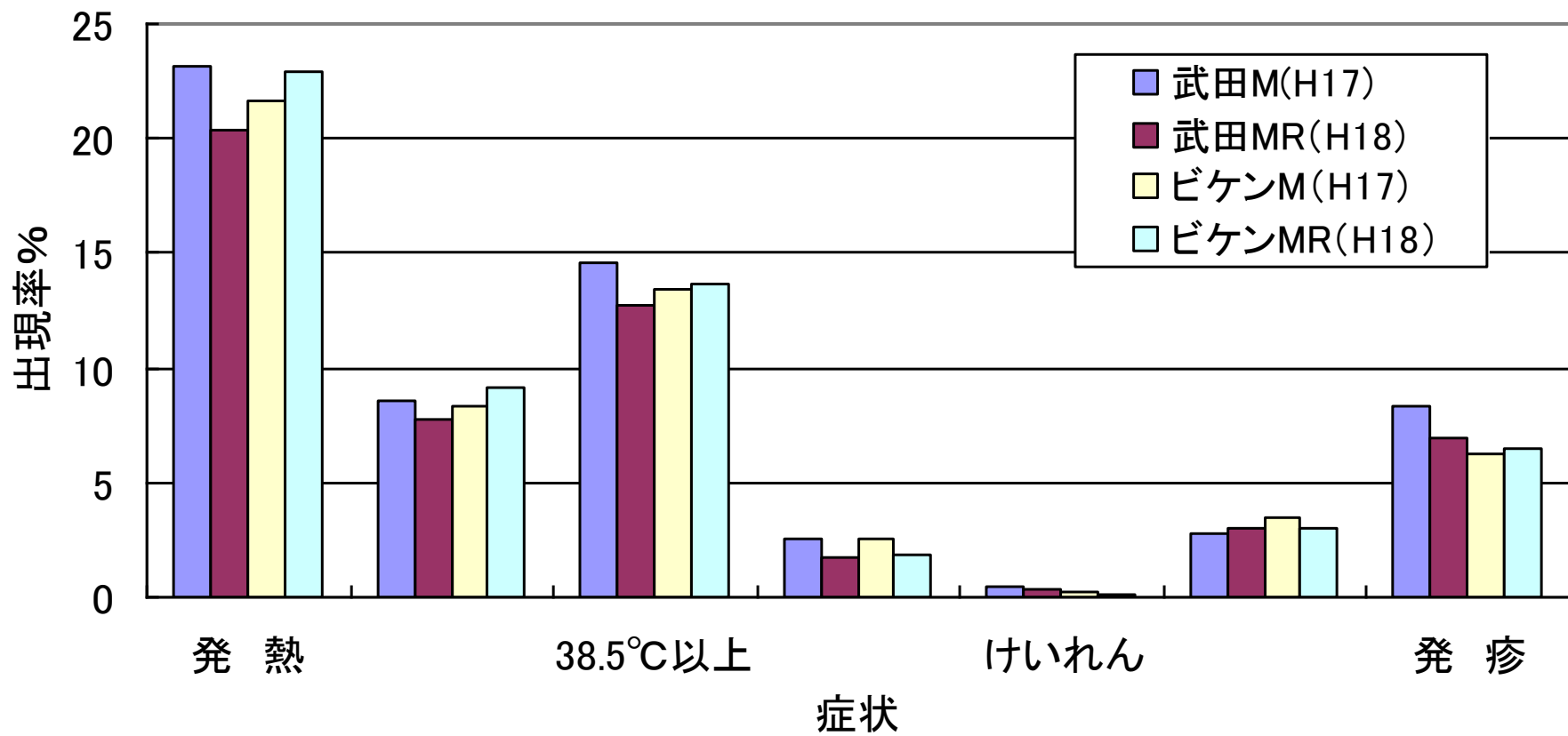
MRワクチン1期(5020人)



MRワクチン2期(3338人)



麻疹ワクチンとMRワクチン1期接種後健康状況



予防接種率

予防接種率調査には種々の方法がある

- 国は予防接種実施率(接種者/対象者)を公表
 - 全国集計の公表まで時間がかかりすぎる
 - 一部各市町村で対象者の計上法が異なる
- 都道府県市町村別予防接種実施率(H20年度)
 - <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>
 - KW: 予防接種、作成: 厚労省 → 地域保健・健康増進事業報告 → 平成20年度地域保健・老人保健事業報告
- 予防接種台帳に基づく全数調査
 - 台帳がない、電子化されていない市町村が少なくない
- ランダム抽出による推計法
 - 研究班で実施
- 任意接種ワクチンの接種率 →把握が困難

厚労省への提言

(1) サーベイランス

- 迅速な集計、分析、公表が可能になるシステムにする
- データを閲覧しやすくする
- 分析結果を一般国民にわかりやすく示す
- データを研究に使いやすくする
- 研究結果を施策に反映させる
- 任意接種ワクチンも、より効率的に副反応や接種率を把握するシステムを考える

厚労省への提言

(2) 基本施策

- 予防接種は健康の基本の一つであり、経済格差を解消する
- 対象疾患や実施要領等を、国際常識に適合させ、医学的な妥当性を高める
- 法は基本的なことを定め、事態の推移に応じて迅速で適切な施策をとれる体制をつくる
- ワクチンや予防接種に関する事柄について、専門家の意見を正当に反映させる